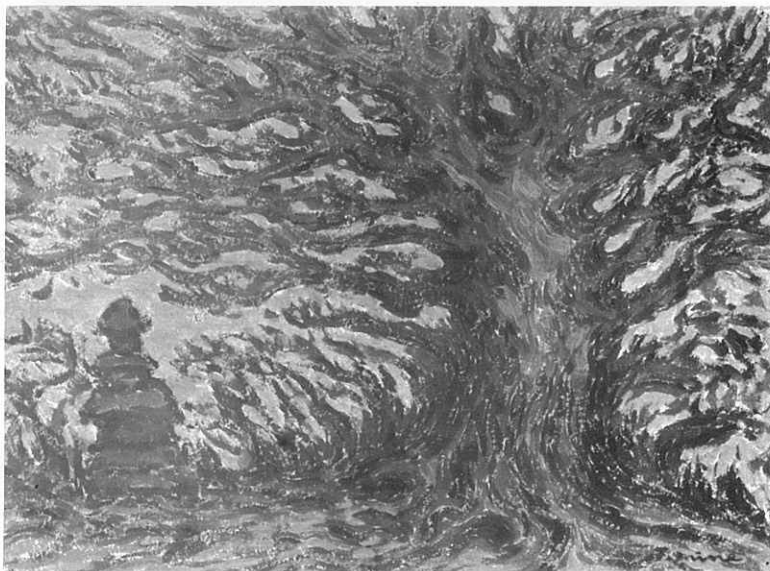


佐賀県立博物館報 №.29

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 09522(4)3947



巨 樹 1928年 油 彩 厚 紙 33,0×45,0

明治42年、シベリア経由でフランス留学を志した三根は、事情が許さずウラジオストック滞留在数年で帰国、閩々のうちに伊万里円通寺へ参禅し、画境の転換をはかった。

挿絵の作品は、昭和3年のもので、彼が苦悩の中で見出した独特の描法を見せはじめる作例である。おさえた色調、太く伸びのある筆触は、力強い木版画を思わせるが、一見大胆に見える構図の中に、求心的なうごめきと緊迫感が感じられる。

造形の世界へ深い精神性を込めようと信じた彼が、今まさに苦闘のうちにいることを思わせる。

目 次	巨 樹.....	1
	郷土が生んだ異才の画家.....	2~4
	三根霞郷展.....	5
	三根霞郷略年譜.....	6
	博物館日誌・行事のお知らせ.....	6

郷土が生んだ異才の画家——

三根 霞 郷展

会 期 昭和51年3月6日(日)～4月7日(日)
午前9時～午後4時30分(入場は
4時まで/月曜日休館)

会場/主催 佐賀市内1丁目15～23
佐賀県立博物館

観 覧 料	大人	大・高生	中・小生
個 人	150円	100円	50円
団 体	120円	60円	30円

三根霞郷(1883～1946)は、明治16年杵島郡桶村嶋(成)瀬(現在武雄市)に生まれた。幼少の頃から画を得たに似、明治34年、18歳の時洋画家を志して上京、小山正太郎の画塾不同舎に入門している。

当時の不同舎は活気にあふれた時代で、青木繁(明治32年入門)、坂本第二郎(同35年)の他、彼が親交を結んだ山下繁雄、深見担郎、山本建振、伊藤從理らが学んでおり、また後年県立小城女学校で教壇に立った平島信も三根より一年早く入門している。

彼の不同舎時代の遺作は現在見出しえないが、明治36年10月、坂本、山本、伊藤と伊豆三島へ写生旅行をした時の写真が残されており、当時の意気盛んな画学生の風貌と彼の交遊関係を伝えている。

しかし、在塾3年目に、それまで一家の支柱となっていた兄の死去に遇った彼は、やむなく帰郷し、志かなわぬま、依頼肖像画のもとにに応じて亡兄の代りをつとめていた。

明治41年末頃に、九州放浪中の青木の来訪を受けた彼は、おそらく青木の個性に刺激され再び本格的な洋画研究に目覚め、シベリア経由でフランス留学を願うウラジオストックまで渡りこの地に暫く滞在したが、母危篤の知らせを受けて帰国を余儀なくされた。

その後、焦躁の日々の内に参禅に活路を見出し、伊万里円通寺での修業によって画境の転換をはかった。

大正3年、再上京途次京都へ立寄った彼は、遂に終生この地にとどまった。

京都時代の彼は、はじめ生計のため肖像専門画院にたずさわり、依頼肖像画も描いたが、彼本来の油彩画は、次第にモチーフを彼自身の眼に映る身辺の平凡な風物に限り、その平明なモチーフをデフォルメすることによって、独自の解釈による画面構成を創りあげていく。しかも彼にとっては、自らの画面に自らの精神性といったものを、いかに定着させていくかということが主要な関心事であった。

この精神性(思想性)の重視、木版画を思わせる影り



若き日の三根霞郷

のある筆触、限られた暗調の彩色は、必然的に彼を水墨の世界へと導いていった。

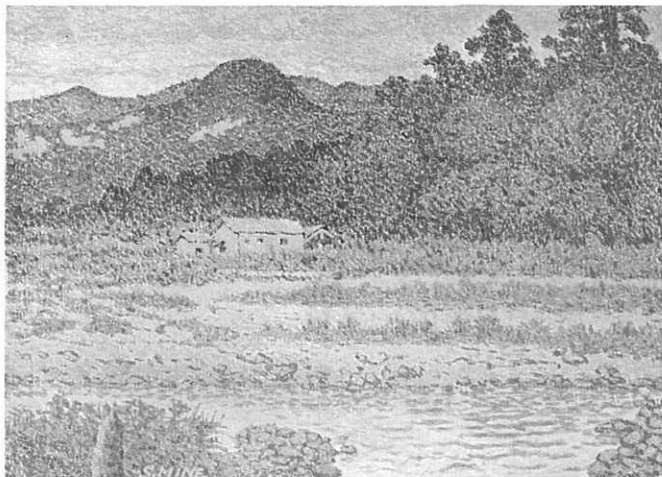
しかし、彼の水墨画は、いわゆる南面的な心情画とは異なり、洋画の素養を生かした構成、筆触を残しており、その上での画面の抽象化を進めたものである。

さて、彼は在洛中その絵画への異常な熱意にもかかわらず、いやそれ故にこそ、当時の公募展へ一度も出品することなく、また個展を催すこともなく、ひたすら自らの画境とのみ対峙していた。

不同舎の先輩であり、当時の京都洋画壇の重鎮であった鹿子木猛郎も、三根の異才を惜しみ何度か出品を勧めたことがあったが、遂に首肯しなかった。

清水寺山中、二尊院、滝口寺と隠棲を続けた彼は、彼と接した人すべてに等しくその深い人間性で感銘を与えたが、彼が生涯を費したその画業に対する理解を得ることがなかった。

しかし、いわば孤高の画人と呼ぶにふさわしい彼の遺作群は、没後30年目に、あらためてその異彩を放つわけである。



上賀茂風景 1914年 油彩 画布33.0×45.5



アイヌの顔 1924年 油彩 厚紙32.8×24.0



伏見の酒倉 1927年 油彩 画布50.0×65.5



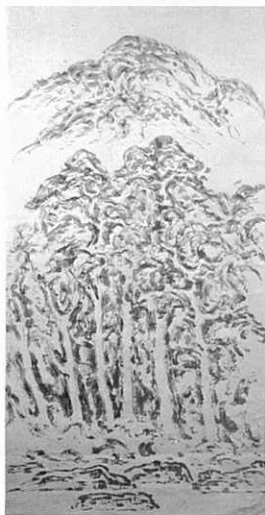
鞍馬山林 1935年 油彩 厚紙24.0×32.5



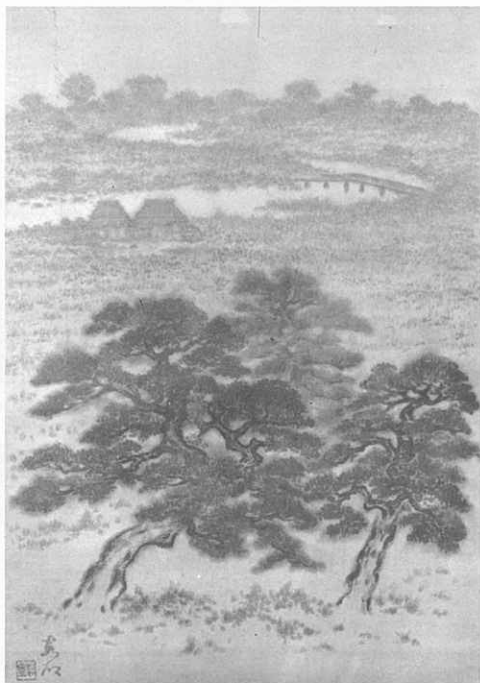
農耕 1919年 紙 木炭42.6×58.4



山陰の漁村 1945年 紙本水墨75.0×55.0



川辺の森 1944年 紙本水墨151.0×69.0



佐賀川上川上流(絶筆) 1945年 紙本水墨72.0×50.0

三根霞郷略年譜

年号(西歴)	年齢	本 譜
明治16年(1883)	0	1月10日 佐賀県杵島郡桶村(成)瀬(現在武雄市)に、三根一樹・エイの次男として生れる。貞一と命名。
26年(1893)	10	3月 多良尋常小学校卒業 4月 長崎在住の兄順一に引きとられ長崎高等小学校入学
30年(1897)	14	3月 長崎高等小学校卒業 4月 長崎尋常中学校入学
31年(1898)	15	9月 家事のため尋常中学校中途退学する
33年(1900)	17	藤津郡長中島貞夫の勸ましを受け洋画家を志し上京
34年(1901)	18	5月4日 小山正太郎の画塾不同舎へ入門。当時の不同舎には青木繁(明32入門)坂本繁二郎(明35)らかいた。
36年(1903)	20	10月 坂本繁二郎、山本建振、伊藤従理と伊豆三島へ写生旅行する。
37年(1904)	21	兄順一死亡のため、4月11日不同舎から徒歩で藤津郡多良の実家へ帰省する。
38年(1905)	22	秋頃から父母・末弟を養うため依頼肖像画揮毫をはじめ。 〈肖像画揮毫者人名簿手控〉によると、大正4年までの11年間434名の依頼があった。
41年(1908)	25	年内に佐賀市与賀町の間借り部屋へ青木繁の来訪を受ける。青木とともに泰西名画のカラー写真を売り歩き、途次写生する。
42年(1909)	26	3月 青木に刺戟されシベリア経由でフランス留学を志し、途中ウラジオストクに3年間滞在。〈西伯利亚新聞〉に挿絵を描く。
44年(1911)	28	7月 母危篤の知らせを受け帰国。
45年(1912)	29	8月2日 母没 画業への焦躁や種々の悩みを払うため伊万里臨濟禅寺円通寺の赤井大休のもとへ参禅する。老師の計らいで寺内に一室を与えられ、参禅のかたわら画境の転換をはかる。
大正1年		
大正3年(1914)	31	4月 再上京途次京都にとどまる。 6月6日 一時帰佐。
4年(1915)	32	11月 再上洛。
5年(1916)	33	この頃、生計のため下宿先軒下にはパステルの〈大隈伯夫人肖像〉を掲げ肖像画の依頼を受けるとともに、写真の修正にも応じていた。
7年(1918)	35	5月 一時帰佐、程なく再上洛。
11年(1922)	39	この頃、西田鳳声主宰の〈肖像専門画院〉にかかわる。
12年(1923)	40	2月 画論〈為我苦理草〉起稿。 6月 父一樹没のため一時帰佐。
13年(1924)	41	1月 〈為我苦理草〉脱稿(952字詰51枚) 5月 〈素描画譜〉(肖像専門画院刊)発行 9月 五十嵐巧業を伴い北海道写生旅行に出かける。途中福井県に立寄り、12月札幌へ着く。 この年画論〈畫家の思索〉脱稿(476字詰136枚)
14年(1925)	42	3月 北海道写生旅行を終え京都へ帰る。
15年(1926)	43	この年、西田鳳声経営の〈下鴨絵画研究所〉に加わる。この研究所は自由研究的性格のもので、三根は先輩格として若干の指導もした。また不同舎の先輩鹿子木猛郎もよく来訪した。
昭和3年(1928)	45	弟の紹介により清水寺境内音羽山中に隠棲。
7年(1932)	49	小倉山二尊院内一室に仮寓、同じく寓居中の日本画家中田晃陽と親交を結ぶ。
9年(1934)	51	小倉山滝口寺創建され、その堂宇として同寺に隠棲する。 この頃から水墨画に画境をもとめる。
13年(1938)	55	〈響流〉(第11巻第12号)挿絵を描く。
14年(1939)	56	〈響流〉(第12巻第3号)挿絵を描く。
15年(1940)	57	2月28日鹿子木、西田滝口寺を訪れる。
16年(1941)	58	5月10・11日 愛好者の求めに応じ京都六角会館に於て作品を頒布(52点)
20年(1945)	62	春末弟儲一入寺式参列のため一時帰佐。
21年(1946)	63	1月13日小倉山滝口寺で没。 滝口寺一隅小松堂裏に、弟儲一の筆になる古木の碑建立。

博物館日誌

50年		1月25日	「佐賀県高等学校書道展」終了(総観覧者数411名)
12月16日	「佐賀県高等学校美術展」開場(大展示室)		佐賀市江越ツヤ子氏ほか11名茶室利用
12月21日	「佐賀県高等学校美術展」終了(総観覧者数380名)	2月5日	「佐賀県書道教育連盟書初展開場(大展示室)」
12月27日	執務納め	2月8日	「佐賀県書道教育連盟書初展」終了(総観覧者数1,468名)
51年			佐賀大学茶道部50名茶室利用
1月5日	執務始め	2月14日	「筒井茂雄退官記念展」開場(大展示室)
1月15日	「成人の日」のため常設展無料公開 小城町加藤泰子氏ほか20名茶室「清恵庵」利用	2月18日	「筒井茂雄退官記念展」終了(総観覧者数1,461名)
1月22日	「佐賀県高等学校書道展」開場(大展示室)		

●行事のお知らせ

修学旅行等の計画に博物館の見学を折込んで下さい。

	常 設 展		
	50年	51年	
佐賀県の歴史と文化展	12月7日～3月31日	大 人 50 (30) 大・高生 30 (20) 中・小生 20 (10)	佐賀県の地質時代から現代までの自然史資料や考古、歴史、美術工芸の資料を系統的に展示し、本県の歴史と文化の特質についての一般の理解に資する。

展 覧 会 展	企 画 展		
	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金	備 考
三根 霞 郷 展	3月6日～4月7日	大 人 150 (120) 大・高生 100 (60) 中・小生 50 (30)	孤高の画家三根霞郷は、これまで殆ど顧みられることがなかった。しかし、その遺作は、油彩、水墨を問わず、彼の優れた画業を見せている。今回、彼の遺作、遺品を一堂に展覧し一般の鑑賞に供するとともに、近代美術史上の彼の立場を明らかにしようとするものである。

庚申堂塚発掘調査

1. 調査期間

昭和51年3月10日～3月19日

2. 発掘調査者

佐賀県立博物館
鳥栖市教育委員会

3. 所在地

鳥栖市神辺町宇庚申堂

4. 調査目的

海拔約50mの神辺町一帯の台地には、庚申堂塚をはじめ装飾文様が描かれている田代太田古墳・岡寺前方後円墳・剣塚などひとときわ群を抜いた大規模の古墳が築造されていて、この地方に有力な社会的地位を得ていた被葬者たちの墓域であったことが推定され、この遺跡の重要性をうかがわせる。そこで、この古墳群の中心的存在である庚申堂塚の石室等を調査し、古墳時代における墓制の検討をおこない文化史的意義を追求するものである。

●新刊書案内

坂の下遺跡の研究—佐賀県立博物館調査研究書第2集
西有田町・坂の下遺跡の発掘を過去3回実施しましたが、その発掘調査報告書で写真・拓本、等の図版を多く使用し容易に理解できる縄文時代中期の学術的資料としてご参考になると存じます。

形 態 B5版 アート紙 150頁
額 価 1,000円 (送料160円)

博物館報	第 29 号
発行年月日	昭和 51 年 3 月 1 日
編 集	大 園 弘
発 行	佐賀市城内1丁目15～23 佐賀県立博物館
印 刷	合資会社 佐賀印刷社